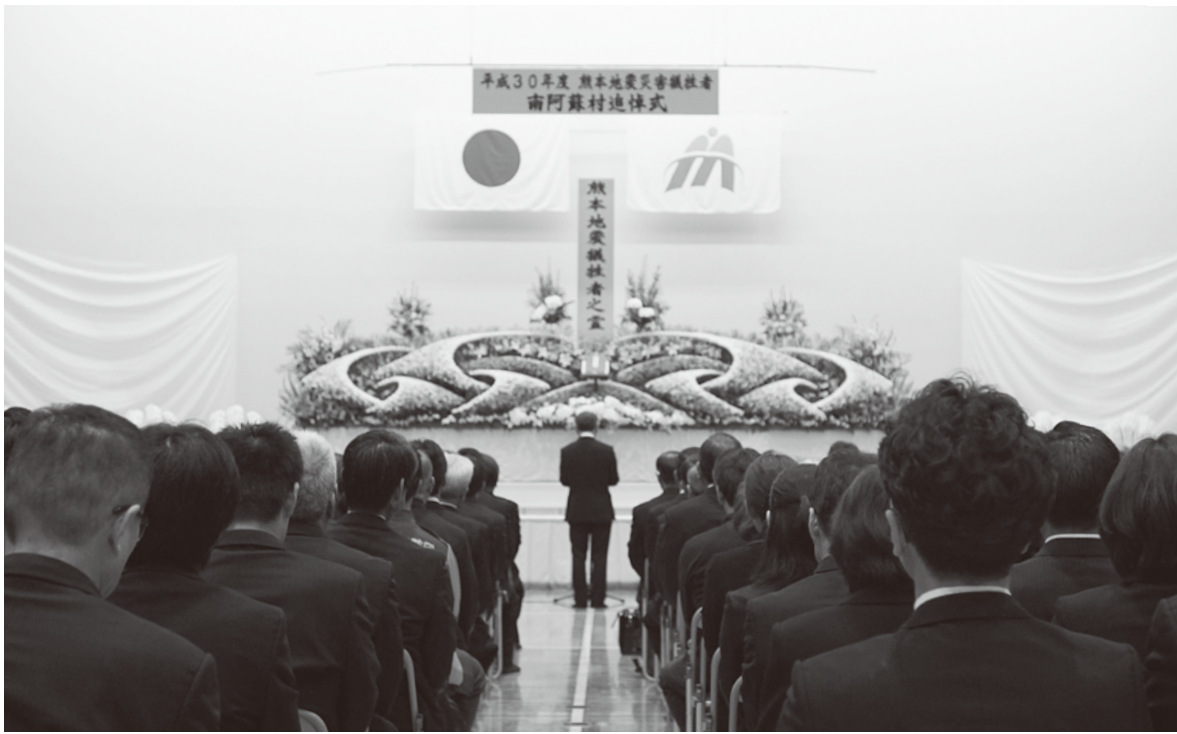


熊本地震から2年

熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式



「あの日を忘れない」

村全体での追悼、復興へ向けて

■犠牲者の冥福を祈る

平成28年4月14日、16日に発生した熊本地震から2年。「熊本地震災害犠牲者南阿蘇村追悼式」が、4月15日、長陽体育館(南阿蘇中学校第2体育館)で行われました。式には、犠牲者の遺族や、東海大学関係者、国会議員、村民、村関係者など、約300人が参列。村内での犠牲者30人の名簿を古庄広幸総務課長が祭壇に奉呈すると、村内全域に流れた防災無線のサイレンに合わせて一斉に黙祷が捧げられました。

■心をひとつに、前進の誓い

吉良村長が犠牲者に対する深い追悼の意を述べ、「被災し、今もなお不便な生活を強いられている方々が一日も早く元の生活に戻れるよう、村の責任者として生活再建に全力で努める。村民の皆さまと心をひとつに、ふるさと『南阿蘇村』を必ず復興し、次の世代にしっかりと引き継いでいくことを誓う」と復興への決意を示しました。

阿蘇キャンパス(黒川地区)が大きな被害を受け、3人の学生が犠牲となった東海大学からも哀悼の言葉が寄せられ、大学生代表の浦谷柚穂さんが「震災の経験や記憶を風化させないこと、苦しくつらい経験をこれからの人生の糧として、志半ばで亡くなってしまった先輩や同級生の分まで前を向いて歩いて行くことを誓います」と述べられました。

その後、参列者一人一人が献花を行い、犠牲者の安らかな眠りを祈る白い花が献花台に積み上がりました。



- ① 犠牲者への黙祷
- ② 東海大学生代表の浦谷柚穂さん
- ③ 古庄総務課長による犠牲者名簿奉呈
- ④ 参列者による献花

追悼式のほか、「復興むらづくり協議会」が設立されている地区で復興に向けた行事が開催されました。各地区の行事概要を紹介します。

①「南阿蘇・黒川ウォーク」(黒川区)

4月15日、黒川区の住民の皆さんが主体の実行委員会主催で「南阿蘇・黒川ウォーク」が開催されました。このイベントは、地震により被災した集落の現状と復興へのあゆみを知ってもらうことや、災害に対する日頃の備えの大切さを学んでもらうことを目的としたもの。当日は、村内外から約100人が参加し、阿蘇大橋跡地や東海大学を、阿蘇ジオパークガイドと東海大学生語り部の案内で歩いたあと、地区住民の皆さん手作りの温かい料理が振る舞われ、熊本大学の鳥井特任教授から断層などに関する講話がありました。



②「護王神社復興祭」(乙ヶ瀬区)

4月15日、熊本地震により被災した護王神社の復旧工事が完了したことに伴い、復興祭が開催されました。当日は約30人が参加。神事終了後、復旧した神社の前で記念撮影をし、公民館で会食がありました。



③「天満宮神社落成式」(袴野区)

4月15日、熊本地震で被災した天満宮神社の復旧工事が完了したことに伴い、落成式が開催されました。当日は、地震直後に県外からボランティアとして訪れた人などを含む約30人の参加があり、天満宮での奉祝祭後に公民館で食事をしながらの交流がありました。



④「今後の災害に備えた情報伝達訓練」(長野区)

4月15日、長野区では自主防災組織の連絡網を使い、梅雨時期の豪雨や突発的な災害時を想定した情報伝達訓練が行われました。今回の訓練の反省点を活かし、さらに防災体制の強化に取り組まれる予定です。



3月18日には天草のボランティアグループ「きばれ!あまくんしー」からの支援を受け、ちゃんぽん交流会が開催されました。

⑤「慰霊祭」(立野・新所区)

4月15日に立野区、4月16日に新所区で、熊本地震により犠牲となった地域住民を追悼式が行われました。両地区とも約30人が参列し、黙祷が捧げられました。新所区では毎月、震災を忘れないという想いから月命日に献花などが行われています。



⑥「住まい再建に関する勉強会」(沢津野区)

4月17日、沢津野公民館で住まい再建に向けた勉強会が開催されました。応急仮設住宅の退去期限が近づく中、住まい再建に関する村の支援制度や、住宅金融支援機構の職員を招いての融資・リバースモーゲージに関する説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

